

【学校では教えてくれない「日本には所有権がない」という驚愕の事実について考える！】

⇒編集後記で

~~~~~

どうもゆうです！

読者さん、こんにちは！！

さて、それで今日は

**【学校では教えてくれない「日本には所有権がない」という驚愕の事実について考える！】**

ということについて書いていきたいです。

これはきっと多くの人にとって「驚き」だと思います。

私たち日本人は「漠然と」所有権がある、と思ってるわけですね。

が、実は日本社会や制度なりを分析していくと

「どうも日本 Japan には所有権が存在していない」

という驚愕の事実がわかってくるわけです。

よく、私たち現代人は「資本主義」という言葉を使うけど

そもそも資本主義の要諦(ようたい)ってのは

「所有権」にある。

けどこの所有権がない国を資本主義と呼ばないので、  
「実は日本は一度も、資本主義を経験したことがない国である」と  
いえるわけですね。

こういう事実を学校では教えてくれません。

また、同じく日本の高等教育である大学、例えば  
私の行っていた早稲田の政治学科の学生たちもこれを大多数は知らないし、  
またそれよりも頭がよいとされる東大生なんかもこれを知らない。  
(知ってたら、官僚にならない。)

が、実は最近のアジア圏のそれこそマレーシアの頭良い将来の指導層になる  
若者とか、香港、韓国、シンガポール、台湾あたり、  
またオランダあたりの世界基準の教育を受けてる人たちは知ってる内容なんです。

今日はこれを書いていきます。

そして、これを知ればなぜ日本が不況のままずっと  
「失われた30年」なのか、また他の国が逆にどんどん発展しているのか  
またどういう国で投資活動をすれば成功するのか、

という分析視点が読者さんに育ち、わかるようになってきます。

ということで今日はなるべくわかりやすい文体で説明します。

**【学校では教えてくれない「日本には所有権がない」という  
驚愕の事実について考える！】**

さて、上に書きましたが今日は

**【学校では教えてくれない「日本には所有権がない」という  
驚愕の事実について考える！】**

ということについて書いていきたいと思います。

この所有権については、多くの人が当然のもの、  
と考えてるわけですけど

実は厳密に日本社会や制度を分析してみると

この所有権、ってのは全然実は日本で戦後70年経過しても  
まったく確立していない、というのがまず実際の真実なんですね。

これを書くとな多くの人がきっと驚きます。

「え、日本には所有権がしっかりあると思っていた」

と、驚くと思います。

が、実はこれは大思想家の小室直樹、また山本七平によって  
数十年前に明らかにされているのですけど

実は日本には所有権が存在していないのであります。

---

ここに実は根本的な日本社会の構造上の欠陥、闇がありまして、

それが簡単に言えば今の多くの日本人の苦しみにつながっている、  
ということでもありますね。

例えばそうですね～マイナンバーとかはあれは読者さんの  
資産捕捉のためですよね、あとで奪うための。

ああいうのもそうだし、どんどん作られていく

新しい税金、あれで国家は簡単に読者さんの資産を奪える状況でして

例えば「自分で稼げたぞー」となってもそこで

多額の税金がかかってそれで資産を失う人も後を絶ちません。

この「根本的な原因」はどこにあるか？？

というと一言で言うと「日本においては所有権が確立されていない」

ってところなんです。

今日はこの辺の学校では絶対(色々不都合だから)教えない

そういうことを書いていきたいと思います。

このレベルで多くの人を知ることができるようになるまで

おそらく私たち日本人の民衆の未来は大変なものになるので。

(が、日本の官僚や公務員は民衆が無知のままいたら

より強くなれます)

それでよく私たちは「資本主義、資本主義」って言う。

けどみなその「資本主義とは何かを学校で故意に教えられていないから」

だから「イメージで」資本主義を論じてるわけですね。

なんとなくイメージで「資本主義」という言葉を使っている

例えば「資本主義はだめだ〜」という人に「じゃあ資本主義とは何ですか」

と聞いても実は、本当のところ、誰も答えられないというのが

日本の現状です。

これは本当に日本の一流学府の東大とか京大の生徒さんたちでも

答えられないんですね。

教えられていないから。

これが日本の教育のゆがみ、として存在するわけです。

それでじゃあ「資本主義でもっとも重要なのはなんでしょう??」

と質問したとして、これもまた多くの人が答えられないけど

答えは「資本主義においては所有は「絶対」である」

~~~~~  
というのがもっとも重要です。
~~~~~

それでまず知っておくべきこととして

資本主義の前提条件としてもっとも重要なのが

「市場の普遍性(ふへんせい)」っていうんですね。

これはどういうこと??というとそれは

「どこにでも市場があること」であります。

例えば、株でも市場がありますよね、魚や野菜でも

卸売りの市場がある、

また最近は仮想通貨でも市場がありますよね。

この「どこにでも市場があること」というのはとても大事で、

それが市場の普遍性、っていうんですね。

要するに、主な売買は、常に市場で行われるっていうことです。

すべての相場参加者、企業たちってのは市場原理に支配される

これが資本主義の前提条件でまず重要です。

またさらにその前提として法の普遍性(ふへんせい)というのも大事で、

これは法律がちゃんと近代的になっていることなんですけど

資本主義的な法律、これが経済に普遍的であることを

言います。

例えば大企業だけがインサイダー取引を許されて逮捕されないけど

個人はそこで逮捕される、なんて状況だとこれは  
やはり資本主義は機能しないわけです。

それで1市場の普遍性、2法の普遍性

この2つの資本主義のまず前提条件があるんですけど

それは欧米資本主義だとこれは当然になっておりまして、  
一方日本とかあとは昔の中国、なんかはこれは  
いまだ成立していないわけですね。

この市場と法がどれだけ普遍的であるのか、ようするに  
行き渡っているか、

これは近代デモクラシーがどれだけ発展してるか、という  
問題でもあります。

それで欧米諸国を見ると、

資本主義と上の近代法、および

近代デモクラシー(自由民主主義)

これは3位一体で発達してきたわけですね。

この3つのどれが欠けても、他の2つは発育が完全に  
できないわけです。

だから、実は結構左派リベラルの人たちが「資本主義の打倒」  
とか言いますが、実はこれは3位一体の発展の歴史を知っていると  
要するにそれは最終的に近代デモクラシーの否定にもなりますから

そういう意味で この人たちの主張というのは  
実は意識していないかもしれないけど民主主義に対立している  
ということでもあります。

それで、今の日本の問題のひとつとして、上記の  
市場の普遍性、これは確立していないわけですね。

最近だと東芝のWHハウス買収失敗の事件もそうですし、  
また昔なら住専問題とか、大和事件などなど、

市場の普遍性が確立していれば起こらないような問題が  
沢山起こってるわけでありまして。

一応日本にも株式市場というのはあることはありますが  
ご存知のように政府が価格操作に介入しておりますし、

そこにおいては自由市場というのは存在しておりませんし、  
また実際にインサイダー取引なんかも後ろでは為政者がよく  
やってるわけですね。



また例えば「絶対につぶれない大銀行」というのが日本の経済にはありますが、

どう見ても経済的には公共部門、すなわち国家側に属さないはずである  
大企業とか、例えば自動車大手メーカーとか、銀行とか  
ゼネコンとか・・・

そういう公共部門に属さないはずの大企業が、なぜか  
市場原理に支配されていないわけです。

公的部門(国家)と大企業が癒着してしまっています。

こういう大きな問題が日本の抱える問題としてありますよね。

それでいよいよ所有権の話に入りますが、  
実は上の市場の普遍性、これが確立するための条件として  
重要なのが

1所有権、と2契約、これが確立されていることです。

それで今号では2については書きませんが、  
今日は1所有権、について書いていきます。

それで重要なのは

「資本主義は私的所有権から初めて

開始する」

ってことです。

「所有権の確立」というのは簡単に言うと

あらゆる財とか商品とかに関して、所有権が確立していること

を言いますね。

例えば今このメルマガを自分のPCや、スマホで見てる人がいれば

そのPCやスマホの所有権はその人に属しますよね。

こういうと簡単なようですが、実はそうではないんです。

例えば日本のような資本主義が未熟な国、

これを前期資本主義の国とか言うんですけど

ここでは実は「所有」の考え方は存在しないんですね。

あっても確立されていない。

これを日本で初めて発見したのは

山本七平と、川島武宣(かわしまたけよし)博士です。

彼らは所有論、を研究していたわけですがそこで日本には

なんと「所有概念がない」ということを発見してるんですね。

それで川島博士が研究していたのは

「資本主義的所有とは何か？」というところなんですけど

ここでとくに何も断りなければ私が所有、と書いてるときは

資本主義的所有、を意味して書いています。

それで川島博士は資本主義的所有を「私的所有権」として

把握するんですね。

だから所有とは財の私的所有権のことです。

それでこの私的所有権こそがよく使われる資本主義、

~~~~~  
の要諦(ようたい) = もっとも重要な根幹であります。
~~~~~

一言で言えば私たちはよく「財産」という言葉を使いますが

その「財」とは所有権のことです。

資本主義の富みというのは「財」のことであって

各商品価値の使用価値というのは交換価値を前提としていますが

交換価値があることこそ商品であることの本質ですね。

だから例えば金地金=ゴールドというのがあるけど

これが1グラム4900円くらいで買えますが

この財は交換価値があつて、まさに商品なんだけど

例えば私たちが金を1グラム持っていて

それを市場によって売ることができます。

他の財と、交換ができます。

この交換価値の所有権、だけが私たちが参加する市場において

意味をもつわけですね。

だから資本主義の富(とみ)、っていうのは

商品(財)の集積として現れる、わけですけど

この商品(財)っていうのは私的所有権のことです。

ここまで書いて意味不明という人も中にはいるかもだけど

とりあえず知ってほしいのが

「資本主義っていうのは私的所有権から始まる」

~~~~~  
ということですね。

それで資本主義には私的所有権というのがとても大事というか

はずすことのできない条件なんですけど

この私的所有は

1絶対性

2抽象性

を持つわけです。

今日は2抽象性については書きませんが、

1の絶対性は確実に知っておいたほうが良いところです。

ちなみに、これらの内容はググっても出てきません・・・(笑)

それくらい私たちは無知にさせられているってことです。

それで、私的所有権の絶対性、というのがとても重要なわけですが

この「絶対性」とは何??

と思いますよね。

これはもう簡単に言うと「その所有物は自分の好きなように

自由に、扱っていい」

ということです。

だから「煮ても焼いてもどうぞ自由に」ということです。

だから例えば読者さんがスマートフォンを所有しているとして

そのスマートフォンを煮てもいいし、焼いてもいいし

まあどう使ってもいい、これが「所有権の絶対性」の意味です。

だからそこで国家はその使い方について口出しができない
ということですね。

ただこの所有権の絶対性というのは、日本においては今も昔も
存在していませんが、

たとえば徳川時代なんかで偉い將軍様から馬をもらったとします。
本来はこの馬をもらった時点で、読者さんのものだから
何しても自由です。

馬肉にして食べてもいいはずですよ。

ただもしこの馬を当時の徳川時代で馬肉にして食べてしまったら
下手したら切腹やはりつけ刑になるわけです。

だから「この馬をもらったのは私だ。だからどう扱っても私の
自由である」

と言っても、その所有は絵に描いた餅なわけです。

そこには所有権の絶対性はないわけですね。

それでここで所有権が絶対であるっていうのはどこから来たか？
というの覚えておく必要があって、これは実はキリスト教から
来ております。

キリスト教的神観がどうしても日本人が理解できない部分ですが
このキリスト教的な神観を前提にして、近代において
所有権の絶対性は発生したんですね。

だから所有権概念が欧米で早く育ったということでもあります。

例えば資本主義のような形ができる前、古代や中世においては
この所有は絶対である、なんて考え方はなかったんですね。
何かしらの制約を受けたものばかりでした。

それならじゃあこの所有権は絶対であるっていうのはどこからきたか
というとキリスト教から来てまして

キリストだと神が全てを作り上げたということになっているから
そうすると創造者の神(God)は被造物(Creatures)を作ったから
ここで被造物である人間も含めて全て神の私的所有物という考え方をするわけです。

このようにキリスト教では神、創造者の被造物に対しての
所有権は絶対的なんですけど

これは神が上にいて人間が下にいる関係で上下の絶対的所有権の関係
ですよね。

神

↓ (絶対所有権を持つ)

人間

これを

人間 ⇔ 人間

の横の関係に変えたのが、これが資本主義的所有権のことです。

だから宗教の基盤がない私たち日本人はなかなか

これが理解できないんだけど、それが資本主義の要諦である

所有権の根本としてあります。

だからこの所有権はそういう背景を持つてるから

資本主義では「絶対」なわけですね。

なぜ絶対でないといけないのか？というとこれは
よく考えればわかりますけど

それがもし絶対でない場合、例えばそうですね、

お金を転売なりFXなりバイナリーなり株でもいいけど
読者さんが頑張って稼ぐじゃないですか？

が、その後、法の普遍性が無視されて例えば税務署が
税法にないのに「内規でこうなってますから」となって
読者さんが要求する経費を否認したとしましょう。

実は、税法では経費を否認できる根拠はないんですよ、知ってました？
これが自己申告制ということだ。

んで実際は日本の場合
税については税法が無視されて形骸化(けいがいか)
してるわけですけど

ここで国家が好き勝手お金取れる体制なんですけど、
ここでまず法の普遍性は死んでるとなります。

それで、ここで「あなたは沢山稼ぎましたけどちょっと
世間の評判が悪いから、迷惑っぽいから、(違法ではない。)
だからあなたに課税します」
ときたとする。

それでここでもし読者さんが稼いでもそういう

ターゲットにされたら、起業家なり投資家は無一文になるわけです。

これは日本であるある、ですよ。

こうなると、所有権の絶対性は確立されていないわけですよ？

自分で財(お金)を稼いだのにこの財、お金は自分に属していない

所有権は流動的で、国家の気分なり、そのときの情勢でいかようにも

壊されてしまうわけです。

こうやって所有権の絶対性がない場合、

経済主体となる企業も消費者も、目的合理的な生産計画、

投資計画、および消費計画は立てられないわけですね。

だって「いつ自分が 仮に今持ってる貯金を奪われるかもわからない」

という状況で、

果たして設備投資なりできますかね??

あとで国家にマイナンバーで捕捉されて財産税で財産を

ほとんど持ってかれるかもしれない、

あとで難癖つけられてお金を奪われるかもしれない、

という所有権が確立していないところで

そこで生産計画、消費計画というのは立たないわけなんです。

だから結局ひたすら生きるために人々は溜め込むことしか
なくなってしまうんだけど、

それを批判する人も多いけど、もし溜め込むことを否定するならば
まずは私的所有権をちゃんと確立しないといけないわけです。

そうじゃないと投資にお金は回らないということ。

だから商品がちゃんと流通されて消費させるためには
ここで所有が絶対的であることが必須条件なわけです。

これはアメリカの例なのですが、

昔ハワードヒューズのお父さんは石油を掘るために
削岩機(さくがんき)会社を作ってお金持ちになりました。

がその父はハワードヒューズが18歳のころに死んでしまいます。

そこで父の莫大な遺産や会社だけが残されたんですね。

そこでハワードのおじや、おば、がですね、

「18歳のハワードヒューズにはこれらの財産を管理するのは無理だ。

彼が大学卒業するまで私たちが管理する」

と言い出したわけです。

ここでハワードヒューズが言ったのは

「その必要はありません、私は例えばハーバード大学に行くには
頭が良すぎます。意味がない。だからすぐに仕事します」
ということでした。

ここで、18歳のハワードヒューズは親の大きい会社を売却して
それで映画会社を作るとか言い出すわけです。

「いくらなんでも
「ハワードヒューズに所有権があるからといって」
そんな勝手なことは許されない」

と、叔父や叔母は怒ったわけです。

そこで親権発動して裁判になった。

ここで日本の場合だと、下手したら
「公共の利益」に沿ってないとして
ハワードヒューズが負けそうですが

当時の資本主義を理解していたアメリカの裁判官は

「これらの会社ふくむ財産は誰がなんといおうと

ハワードヒューズの所有物である。

いくら若いといっても「ハワードの所有権は絶対だ」。

彼が自由にそれを使うことに対して阻止する法的理由はどこにもない！」

と判決を出したのです。

これが、資本主義の判決です。

これが資本主義の私的所有権の絶対性、ということなんですけど

わかりますかね。

日本だところはいかないですよ。

例えば、そうですね週刊文春あたりがこれについて

「ハワードヒューズがおかしい」みたいに報道しまくって

世論を作ったら、

その世論の空気を読んで、裁判で判決が出されますよね。

ここにおいては実は私的所有権の絶対性はないわけです。

それで過去においても現在においても日本なんかでは

所有権の絶対性はない、わけです。

日本人の所有権はあまりにも多くの制約がつきまっています。

これが日本の市場法則にあまりにも多くの制限を課している
といえます。

所有の絶対性というのは

「所有者は その所有物を使用しても、破壊しても
またこれを売って処分してもよい」

というものなんですけど

要するに所有物に対してどんな行為をもなしうる
ということになります。

が、例えば最近だとそうですね、預金を1億円していたとして
じゃあ銀行にいった
「預金2000万円引き出します、もしくは海外送金します」
と言ったとする。

そうするとなかなかそれを自由に引き出せなかつたりするわけですね。
海外にも送金ができなかつたりするケースがある。

ここではもう完全に所有の絶対性は失われていて
そこでその銀行のお金が一体誰のものなのか??
というのわからない状態ですが、もうこの状態だと

人々はお互いを疑いだすわけでした。ここでは市場は成り立ちません。

また古くは1200年代例えば

親が所領を子供に譲る事例もあった。

親が子供に領地を譲ったんだから、それは子供のものです。本来は。

がここでも息子の所有権は絶対ではありませんでした。

所有物たる領地について息子はどうしても良いわけですが

ここでもし息子は領地を親が満足できるように経営できなかつた場合、

譲った親はそれを後悔して、所領を取り返すことができました。

これを「悔い還し(くいかえし)権利」とか言ったけど

こういうことが日本では古くからされておりました、

それは今でも似た様なことが日本各地で起こってるわけですね。

だから「日本的所有」とでも申しましょうか、この日本的所有は

絶対に見えても、資本主義的な考え方からする絶対、とは

かなり程遠いわけです。

例えば売却も入質も自由でなかったとして

国家権力がその 所有権の行使に介入してくる所有権は

到底 絶対的所有権、とはいえないわけですね。

それでこの絶対的所有権はどうやって生まれたか？という

その歴史も知ったほうがいいわけですが

これは

「所有の絶対性は商品の交換から生まれた」わけです。

商品というのは資本主義的な商品、たとえば1万円札などの貨幣は

当然として、資本や労働力、および証券など・・・

これらの商品の交換という人類の行為があつてそこで

絶対的な所有権が必要だったから確立したわけです。

ここがポイントで、もし商品流通(自由市場)が不完全なところでは

所有の絶対性の確立は難しいわけです。

ちなみに資本主義というとマルクスが最初にそれを言ったのだ

と勘違いしてる人がいるけどこれは間違いで、

正確には資本主義という言葉を使い出したのはゾンバルトという人で

マルクスは「資本制的」という言葉を使っていました。

所有権の絶対性は商品交換から生まれたのですが

日本ではこの所有権の絶対性事態がどうも揺らいでいるという

ことですよね。

それで上記

私的所有権の絶対性と並んで重要なのが

私的所有権の「抽象性」なんだけどこれは簡単に書きます。

この抽象性というのは要するに、例えばレンタカーです。

レンタカーなんかでは誰かレンタカー会社に「車貸して」と

いってそこで契約を交わして、

そこでレンタカーに乗れますよね。

が、そこでお金を払ってるだけで、そのレンタカーの所有権は

そのレンタカーの会社にありますよね。

決してレンタカーを借りた私たちには所有権はない。

ただこれも当たり前のことではなくて昔の日本では

「占有」した人が所有権を持っていたわけです。

レンタカーの制度で言えば「レンタカーを運転しているのは俺だから

もうこれは俺のものだ」という考え方になります、

昔の日本の領地とかは本当にこういう考え方でした。

が、今だと「契約書」とかを書いて「所有権はレンタカー会社にあつて

一時的に占有(その車を持つてる)するのはあなたですけど

その所有権はレンタカー会社にあるからきれいに返してくださいね」

となっています。

ここにおいてはレンタカー会社の所有というのは実際、

2日3日貸したら、それはレンタカー会社に占有されていないのですが

契約書なりを通じて、所有権が抽象的に定義されてるわけですね。

抽象的な論理の世界で、所有権が存在しているわけです。

これが重要。

これを専門用語で 占有と所有の分離、といいます。

例えば銀行預金で考えましょう。

今だと占有と所有の分離が行われてる(はず)だから、

銀行の読者さんのお金は読者さんのものです。

が、それを占有、すなわち100万円預金しているなら

その預金を管理、すなわち、そのお金を実効支配してるのは銀行なんだけど

が、それでも「所有の抽象」があるから、読者さんのものなわけです。

だから資本主義においては占有してなくても所有権を失わないわけですね。

が、日本では実際事例に出しましたが、例えば銀行のお金はまるで銀行のもの、のように扱われてる感じもありまして預金封鎖の心配をする人も多いですね。

ここでは預金を占有、してる銀行がまるで所有権を持ってるように振舞ったりするわけです。

たとえば銀行からお金をおろすときに「これはどうやって使うんですか？」とか質問されてようやく自分のお金をおろせたりする。

ここでは所有権はまるでないような感じですが。

さらにいずれマイナンバーなんかを絡めて、ここで財産税という恐れも出てきていますが、もう所有権が機能しなくなると。

だから多くの人があんまり預金してるわけですが、これも新円切り替えでその財はパーになる可能性も含まれてるわけで、

ここにおいては所有権はあつてないようなものです。

それで日本においては、上の所有の抽象化でいえば昔も今も所有の抽象化はされておらず、

所有と占有の分離はされていないケースが結構多いですね。

本当にわかりやすい事例だと例えば私たちが支払った税金で作られる国の会計のお金というのは、抽象的だけど民衆のものであるはずです。

それが税の思想ですよね??

が、税を通じて国家が民衆から収奪をするんだけどそこで税金として会計組んでる段階で、もうその予算なんかの所有権は国家に完全に移ってしまってるわけです。

だからここで官僚たちがどんどん「財を占有してるから」そこでどんどん天下り作ったりするわけですけど

ここにおいては抽象的な、税金は公共サービスのためにみんなが出したものです、という抽象的な所有権は機能しなくなっているわけですね。

昔の徳川時代とか室町の時代とかに見られた「占有したものが所有権を得る」の時代と本質的には変わっていないわけです。

ちなみに日本で親子関係でよく見られるのは「子供の貯金を親が占有してるからといって勝手に使うケース」って結構あるんじゃないですかね？

それやっってる親御さんは教育気をつけたほうがよくて

これは厳密に言うと所有権の絶対性を子供が理解できなくなっちゃうんですね。

「子供のものは子供のものだから、いくら子供でも預金は

私は手をつけない」

実は私の母なんかはそういう母だったんだけど

そこは私は恵まれていたかもしれないと思いますが

世間では子供の預金を勝手に使う親というのも少なからずいるわけですが

これは所有権の絶対性が理解されていない、および

所有権の抽象性ではなくて占有、で所有権を考えてる日本人が

一定数、結構いらっしゃる、ということでもありますね。

また例えば「本やCDを貸したけどそれが返ってこない」

というのが日本では結構ありますよね。

場合によっては「ねえ、この前の本返してほしいんだけど・・・」

くらいのレベルで貸してるほうがかしこまって頼むような状況、

こういうのが日本ではよくあつたりします。

これは所有の抽象性が理解されていない事例なんですけど

要するに本を借りてる方としては

「それを占有しているのは自分だから所有権は自分にあると

思っていたりする」

ということですよ。

ここでも所有権の抽象性が理解されていなかったりするんです。

だから、貸したものを返さない人とか、例えば本だったら

人のものなのに線を沢山引いちゃう人とか、

そういう人って時々いますが、これはあれです付き合っちゃいけない人

なんです。

たぶん、自分も貧乏になる。

彼らの考え方が所得権の抽象性や絶対性を理解していないという部分で

資本主義に反目してるからですね。

それで、ちょっと長くなりましたがこの

私的所有権の絶対性、あとはちょっと説明した抽象性

これが資本主義の要諦になるわけです。

が、日本には色々な事例を見るとわかりますが私的所有権の絶対性はあつてないようなものだし、抽象性も官僚公務員が「消費税は100%社会保障に」と言っていたのに

実際は社会保障なんかに使わずに、自分たちの給料アップのために使ってることからもないというのがわかると思いますよね。

それで多くの方は色々な名目で国家に所有権を制約されてますから例えばお金使いたい！と思ってもここでまたあらゆる税金がとられるわけですから

計画的な消費計画は立てられないとなってるんですけどさて、こんな市場で資本主義を基礎として経済が発展するだろうか？という話であります。

実は、これがウォーレンバフェットが日本株には投資しない理由でもありまして、

また日経平均がいつまでも以前の3万円台を超えられないで行って来てを繰り返している、日本経済が成長できない本質的理由になります。

所有権の絶対性が日本には確立されたことがないんですからだから厳密な意味で、日本には資本主義はいまだ誕生したことがない

というのが実は本当の、学校では教えてくれない真実であるわけです。

ちなみにこれは日本国憲法29条でもしっかり書いております。

日本国憲法29条では財産権について書いてるけど

「

日本国憲法第29条

第1項

財産権は、これを侵してはならない。

第2項

財産権の内容は、「公共の福祉に適合するように」
法律でこれを定める。

第3項

私有財産は、正当な補償の下に、

「これを公共のために」用いることができる。

」

となっているわけですけど

要するに見ていただいてもわかるけど、ここで

「公共の福祉に適合するように」という文章が挟まれておりますから

ここで、所有権の絶対性の「絶対」は骨抜きにされてるんですね。

だから各種税金とかですね、色々な理由で私たちの所有権ってのはなくされておりますよね。マイナンバーなんかがまさにそうです。

あれでいずれ財産税とやるでしょう。

けどこれは憲法違反かというとなんて難しく

「公共の福祉に適合するように」と書いてるように公的部門が所有権の絶対性を侵せる文章が憲法に書かれてしまってるので

これは所有権の絶対性は日本の制度上ないと言えますのでこれを官僚たちはよく知ってる。

だから「公共の福祉のため」といえるのであれば極端な話読者さんがビジネスで100万円稼いでも90万円は国家が奪うことも可能といえれば可能なんです。

これが実は学校が教えてくれない日本の本当の国家体制でそれは別に私が言わなくても普通に憲法に書いてあるんです。

だから憲法を教えないんですね、義務教育で。

みんな「おかしいぞ」と気づいちゃうから。

ちなみにアメリカの合衆国憲法もこれまた

「正当な保障のもとに」というのと似たような条項はありますから

厳密に言うとアメリカの所有権も絶対性があるとは言いがたいんです。

ただここでトランプというのが出てきてこの前

例えばオバマケアを廃止して「トランプケア」になって

そこで相当税金が、年間数十万円安くなったそうです、実態は。

そこで大喜びしたのがアメリカ人たちでして、これは

「所有権の絶対性の絶対、に近づいたぞ」という喜びです。

だから厳密に言うと世界で資本主義っぽいもの、というのは

欧米で誕生はしたけれども一度骨抜きにされていてまだそれは

純度の高い資本主義ではないんですね。

これがアメリカで2016年以降のトランプ政権以降

育つかどうか？という状況が人類の状況です。

トランプを支持してる勢力としてリバータリアン勢力は目立ちますが

この人たちの本当の思想ってのは

「もし私たちの所有権の絶対性を国家が侵そうとするならば

例えば税務調査と称して、私たちの所有権を侵そうと国家がするならば

私たちは抵抗権を駆使してそこで彼が私たちの敷地内に入ってきたら

銃を持って、国家と対抗して彼らに銃をうつ」

という考え方です。

だからトランプは銃規制には反対なんです、わかりますかね。

これはアメリカ合衆国憲法の抵抗権という考え方からくる。

それで今の日本がどんどん貧困化している原因としては

この所有権の絶対性がまだ確立されていないということに

起因するものでして、

この状況では人々は効率的な投資や消費計画を立てられませんから

そうなるとただただもう生きるために溜め込むしか

ありませんからね、

そうなる資本主義の経済というのは活性化しないわけでした

これが日本の停滞の本質的理由である、ということです。

が、他国を見ればこの所有権の絶対性はマレーシアやシンガポールなんかは

確立して、どんどん豊かになってるんだけど

こうやって市場というのがスムーズに流れるようになってきていて

それで日本がどんどん他国に追い上げられているということでも

ありますね。

んで昨日、海外移住する日本人の数が過去最高を更新してるのを
書いたけどそれは要するに多くの日本人がこの所有権が絵に描いた餅である
日本国家の封建的な社会主義的な状況に気づいておりまして

それに嫌気さして海外に出る人が実際の話大半で
だから人材の海外流出が起こってるということでもありまして
全部こうやって見ると現象がつながってるのがわかりますよね。

これが日本社会がどんどん貧困化している本質的原因です。

それでこの所有権の絶対性を確立して、
純資本主義を確立しておよび近代デモクラシーと近代法を
発展させていきましょう、っていう立場が
本来の保守思想の立場なんです。

が日本では右は右で官僚的な国家社会主義を推奨して
左は左で私有財産制度、すなわち所有権の絶対性を否定する
わけでした

実は本来の自由主義に立つ保守の立場の政党が存在していない
んですね。自称の保守はいる。

これが実は日本人の不幸でして、
だからどんどん増税やらマイナンバーやら

公務員の給与どんどんあがったり、みたいな現象になってくわけです。

稼いでるのは 国家と癒着した大企業と公的部門の人たちだけ、
みたいな。

これは敏感な日本の女性たちが

「結婚相手は公務員か大企業社員がいい」といいますでしょ。

これは言い方を変えれば

「結婚相手は公的部門の男か、公的部門と癒着してる

大企業の人がいい」ということで、

これにもよく現れているんだけど、

今生きられてるのはこの公的部門と公的部門と癒着してる大企業の

人間のみ、というのが女性の配偶者を選択する

深層心理にも反映されてる、といえますね。

到底資本主義が成熟した社会の反応

とはいえないわけですね。

だから、日本においては所有権というのは実はないんだと。

そういうことですね。

当然こういう社会では景気が良くなりませんから

民衆は苦しむことになるわけです。

それで、ここにいち早く気づいたのがアメリカ人たちで

それがまさにトランプを大統領にしてる本質的な理由として

あるんですけど

ここで日本人もまた所有権の絶対性、私有財産制の意味を

ちゃんと理解することが重要ですね。

が、これを理解させたくないから、義務教育ではこれを絶対教えない

となっておりまして、

まさに奴隷を育むのが日本の文科省なんかがやってる

義務教育であるといえますね。

それで私たち投資家たちが考えることとしては

投資対象国としてその国の私有財産制度、所有権の絶対性が

どれだけ確立されてるか??

これを見る必要があります、これが確立していない国は

経済成長を見込めませんから、そうやって投資対象国を選定する

ってのも大事ですよ。

だから投資にもつながってる話です。

ということで、日本には所有権がない、これを初めて聞いた人も
いるだろうけど事実ですのでそろそろ私たちは考えても良さそうです。

では！

追伸・・・ちなみに上記憲法29条で所有権の絶対性が
骨抜きされてる、と書きました。

それで憲法改正議論がありますが、自民党の改憲草案の問題点は
この所有権の絶対性が今でさえない状態、イメージでいえば
20%くらいなのをこれをさらに縮小して

ほぼ1%2%の所有権の絶対性にしようとしている、ということが
問題としてありますね。

憲法9条議論はこの辺を隠すために左右合同でスピンとして
行われてるとすら疑われる。

そうではなくてもし本当に憲法を考えるのであれば
2項の「公共の福祉に適合するように」と3項全体、
これがまさに資本主義の精神と反目する項目でありますから
ここを削除、もしくは変更を考えなくてはならず、

ここでちゃんと近代デモクラシー、資本主義、近代法の確立のために
所有権の絶対性を確立できるように
考える必要が本当はある、ということです。

が、今の段階でこの段階での議論には到底到達していないため
日本経済はこれからも先行きが暗くなると、国家構造上の
憲法なりの分析から
いえるわけです。

逆を言えばここで所有権の絶対性を確立できれば一気に日本は
豊かになる可能性はあるんだけど、それは数十年はかかりそう
という感じです。

(下手したら50年以上?かも。)

これにいち早く気づいてる人たちがどうも

所有権が日本よりは確立されてる他国に出ているということでも

ありますね。

この辺がわかると今の世界で起こってることが大きく俯瞰して

わかるようになり、生きる戦略を立てられますね～

それでは！

ゆう